

## 教育の広がり（藩校明倫館の時間割）

\*一般郷土史料91 2 「毛利十一代史 第二十一冊」

### 解説

諸藩では、学問や武道を教え人材を育成するため藩校が設けられました。萩藩でも、1719（享保4）年に4代藩主毛利吉元が萩城三の曲輪内に藩校明倫館を創設しました。

「文学并諸武芸稽古之次第」および「諸稽古日割」に、明倫館の授業日や休日の規定、一日の時間割、毎月の授業予定を見ることができます。

#### ①授業日

- ・毎年1月12日始業、12月10日終業

#### ②休業日

- ・毎月1日、15日、28日、30日
- ・五節句（人日・上巳・端午・七夕・重陽）
- ・盆（2日間）
- ・城下の神社祭礼日
- ・7月の「講義」と9月の「諸武芸」は休講

#### ③1日の時間割

- ・朝六つ時から五つ時まで「文学素読」（毎月2日から隔日）
- ・朝五つ時から「儒書講釈」（月に12日）・「兵書講釈」（月に6日）
- ・「講釈」終了後から日暮れまで「諸武芸（新陰・鎗・十文字）」（担当者5名で各5日、計25日）・「射芸」（月に6日）、馬術は天気次第で随時

#### ④1か月間の授業日程と授業担当者（写真）

\*1849（嘉永2）年、萩藩は西洋列強からの外圧への対処として、文武興隆と藩政の引き締めを目的に、明倫館を江向（萩市）に移転拡張しました。